

令和8年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①児童・生徒の自立と社会参加を目指した教育活動を実践する。 ②ICT機器等の有効利用による多様な授業の研究・研修を推進する。	①体験的な学びを効果的に授業に入れている。 ②授業技術の積み重ねと共有化により、授業の充実を目指す。	①授業の中で、ポイントを押さえた体験的な活動を行う。 ②ICT技術や提示方法等、スキルを教員間で共有、活用する。	①ポイントを押さえた活動ができたか。 ②授業の振り返りの中で、児童・生徒のできた、わかったという発言、発信、表出、表情が見られたか。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	・児童・生徒一人ひとりの個性や医療状況を尊重し、教育的ニーズに応じた指導・支援を組織的に行う。	①児童・生徒が他者と協力する教育活動を通し、自己理解を深める。 ②児童・生徒のニーズを共有し、チームで指導・支援を行う。	①児童・生徒が協力する教育活動の場を作っていく。 ②教員間での情報共有、病院とのカンファレンスを児童・生徒指導につなげる。	①児童・生徒が協力しながら学習に取り組む場を作り、活動を通して自分を振り返ることができたか。 ②学校と病院とで児童・生徒の情報を共有し、指導につなげられたか。
3	進路指導・支援	・将来の生活の充実を目指し、進路指導、移行支援、キャリア教育を行う。	①将来、主体的に自己選択、自己決定できるよう授業を工夫する。 ②コミュニケーション力を育む授業を実践し、将来に向け円滑な人間関係を築く力を養う。 ③進路指導に関する中学部のキャリア教育を整える。	①各教科、領域で児童・生徒が自分で考え、意思を表出する機会を引き続き設ける。 ②授業の中に友達と一緒に活動したり、意見交換を行ったりする等、友達と関わる場面を設ける。 ③他校の実践等を参考に中学部のキャリア教育を整える。	①授業の機会を活かし、児童・生徒が自分で考え、意思を表出することができたか。 ②授業の中で、友達と関わりをもつことができたか。 ③他校の実践等を参考に中学部のキャリア教育を整えることができたか。
4	地域等との協働	・病弱教育に関する理解・啓発を図り、児童・生徒の地域生活が豊かになるよう支援を行う。	①学校の情報を魅力的に発信する方法を定着させる。 ②地域と協働する授業実践を積み重ねる。	①すぐー等の活用を考慮に入れ、学習の様子や成果を伝えていく。 ②病院ボランティアや地域の方とのつながりを継続、強化する。	①これまでの発信方法に加え、学校生活の様子や成果を、発信できたか。 ②つながりを継続し、授業の一部を連携することができたか。
5	学校管理 学校運営	①教職員が同僚性を発揮して質の高い教育を展開する。 ②児童・生徒と向き合う時間を確保するために、働き方改革を推進する。	①同僚性を高め、互いの理解を深めていく。 ②これまでの取り組みを振り返るとともに、引き続き業務改善を進める。	①ミニ研修や学部や部門を超えたグループワーク研修を行う。 ②今年度の教育課程、グループ業務を振り返り、学校関係者評価等も参考に業務改善を更に積み重ねる。	①研修の方法を工夫できたか。研修後にアンケートを取り、振り返ることができたか。 ②教育課程、グループ業務を振り返り、学校関係者評価等も参考に業務改善を更に積み重ねることができたか。